

場や安全衛生委員会などで議論する運動を改めて進めていく必要があります。

新たに労使で策定した安全考動計画2022に対しては、我々の提言が多く盛り込まれ、特に安全に対しては権威勾配を排し、確認し合うことのできる職場風土づくりに向け「アサーション」の取り組みやルールの見直しを強化していきます。さらに、重大インシデントの有識者会議から指摘のあったチェック機能を研ぎ、職場の視点からの提言活動を強化し、さらなる安全の確立に向けてJR西日本グループ全体で取り組みを進めていきます。

また、2017年度の第三者評価書で厳しい指摘のあった組織風土の改善については、これまで私たちが提起してきた課題でもあり、引き続き我々の側からボトムアップで改革を進めていきます。

2 分会活動とコミュニケーションを活性化し、ハラスメント防止と組合員に信頼される組織の強化・運動の継承を進める

JR入社が6割を超え、各級機関役員世代交代が進む中、結成25周年を機にJR西労組運動の目的と今後の課題やあるべき姿についてまとめた「次代の運動指針」を策定しました。

多様化する職場の課題を的確に把握して会社に提起することのできる組織を築くためには、組合員とのコミュニケーションを重視した分会活動の充実に取り組み、職場におけるハラスメントを撲滅し、魅力と求心力のあるJR西労組運動を全組合員の参加で作り上げなければなりません。今年度もシニア・シニアリーダー組合員と女性組合員の運動への参加拡大に力を入れることとします。そして、引き続き「次代への運動の継承」を最重点課題に、労働組合の原点である助け合いの精神を発揮し、組合員に寄り添い、職場の課題は職場で解決できる次代のJR西労組役員の育成に取り組みます。

これらの取り組みを進めるにあたっては、JR東労組で発生した大量脱退に対して、JR連合への総結集を積極的に支援していくとともに、これを反面教師として捉え、JR西労組の基調である民主的な労働運動と健全な労使関係をさらに強化、発展させ



DON'T
不幸な組合員を出さないために
ハラスメント
あなたの周りにありませんか?
JR西労組は助け合いの組織です。
仲間の子がおかしいと感じたら声を掛けてみましょう。
見たり、聞いたり、されたり、悩まず、役員にご相談下さい!!
西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組) 分会

ていきます。

3 労働力不足をはじめとする課題に引き合い、組合発の企画提案運動を強化し展望を拓く

働く者の視点で提言を策定し実現していく「職場のあり方提言委員会」を引き続きJR西労組の企画提案運動の柱として位置づけ、本年も労使協議を進めます。特に今年度は2018春闘で会社から口頭表明のあった契約社員・縮小廃止に向け「駅の業務体制のあり方」の議論を深化させるとともに、法改正がされる「同一労働同一賃金」に向け、契約、シニア、シニアリーダー社員の出遇改善についても議論を強化し、それぞれの課題について、一定の解決の方向を示すべく取り組みます。その他、昨年度具体的に議論をすることができなかったNSを経ない実務重視型のリーダー育成などに対しても具体的な議論に着手することとします。

また、賃金・昇進制度が2000年の抜本改正から18年が経過していることから、職制の見直しやJR入社組合員の定年延長などを含め、制度改正に向けた議論を行うこととします。さらに、労働力不足の問題はJR西日本グループにも影響を与えつつあり、要員需給のひっ迫が進み、働き方改革の推進が求められています。働き方改革に向けては2018春闘期間に取り組んだ「働き方改革アンケート」を集約、整理し会社と議論を進めていきます。加えて、業務の取捨選択や必要効率化の推進、グループ会社との関係の検討など職場の実態と課題を把握に取り組みとともに、短期と中長期に分けて提言を整理し、改善に取り組んでいきます。

現在、第4次産業革命と言われる時代に突入しており、AI革命、IoTなど我々の働き方が今後大きく変化することも予想されており、様々な情報を収集し、その対応も進めていきます。

4 男女平等参画、ワーク・ライフ・バランス、働き方改革を推進し、充実した職場と豊かな人生を築く

男性も女性も育児や介護、病気などの人生の様々な課題と仕事を、誰もが両立していくことができる職場環境を整備することは、組合員の生涯生活設計を行う上で非常に重要なことです。組合員の意見を反映した具体的な課題の抽出と改善の提案を行い、具体的に進展させていきます。特に、今後も増加する女性組合員が、組合活動に気軽に参加できる環境整備を構築するとともに、職場におけるワーク・ライフ・バランスを実現するために、より一層の働き方改革を働く者の視点で進めていきます。

また、JR西日本においても、女性やシニア社員

はもちろんのこと、中途採用者や外国人留学生の採用など、社員の多様化が進み、それに伴って組合員のニーズも多様化しています。ライフプランセミナーや女性ネットワーク委員会、外国籍組合員意見交換会の取り組みをはじめとして多様化するニーズに合わせた組合員の自立した生活設計への支援をより強化していきます。



5 地域との対話と参加を大切に、鉄道の特性を活かした地域活性化を図る

JR西労組の長年の悲願だった「交通政策基本法」が成立し、各市町村や府県が「交通政策基本計画」の策定に取り組みなど、まちづくりと連携した地域公共交通のあり方について議論が始まっています。三江線が2018年3月末に廃止となりましたが、人口減少や過疎化が急激に進む状況の中、地方ローカル線の維持・活性化の課題は待たなしの状況にあります。私たちが提起してきた吉備線LRT化については、ようやく実現に向け、本格的に議論が始まりましたが、これまでJR西労組が取り組んできた自治体訪問をはじめとする地域活性化の取り組みをより強化し、地域との対話を大切に、交通政策、公共交通のあり方について、地方議員と連携し積極的に議論に参画していきます。また、各地本・総支部において、地域活性化に向けて、地域と向き合う参加型の地方発の運動の企画、実践を進めます。

6 来る統一地方選挙・参議院議員選挙に向け、政治への理解を深め、働く者の立場から政策を実現し将来を築く

私たちの生活を向上させるためには、労使関係で解決できる課題の他に、税や社会保障をはじめとして、国や地方自治体によってしか改善できない課題が多くあります。これまでも北陸新幹線ルート問題や税制改正要望の実現など、私たちの将来に関わる多くの政治的課題に取り組み、成果をあげてきましたが、本年も残された北陸新幹線の財源問題や並行在来線の問題、さらに地域活性化に関わる問題など具体的な課題について、JR連合と連携して対応していきます。

今年度は、来年4月の統一地方選挙や7月の参議院議員選挙があり、とりわけ、統一地方選挙には、JR入社の有望な組合員が初めて挑戦する予定であります。

具体的な運動の展開

1 安全確立の取り組み

本年の4月25日で福知山線列車事故から13年、また1月24日で伯備線列車事故から12年をむかえました。改めて、事故で尊い命を奪ってしまいました107名と3名の御霊にご冥福をお祈りするとともに、お身体や心に大きな傷を負われ、今なお苦しんでおられる多くの皆様の一日も早い心身のご回復を願ってやみません。

JR西労組は、2005年4月25日に発生した福知山線列車事故の反省と教訓を胸に刻み、二度と悲劇を繰り返さない決意で、安全確立を最優先課題に位置付けて取り組んできました。労使の議論を通じて、組合側からの提言も反映しながら「安全性向上計画」「安全基本計画」「安全考動計画2017」そして現在の「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の策定につなげ、その実践と目標の達成に向け積極的に取り組んでいるところです。

そのような中、2017年12月11日に「のぞみ34号」の台車に亀裂等が見つかる重大インシデントが発生させました。新幹線の安全の根幹に関わる極めて危険な事象であり、ご利用者、国民の新幹線に対する信頼を失墜させかねないものであることを深刻に受け止めなければなりません。

そのほか、2017年9月には山陰本線 福知山電車区構内でバックホウと地面に挟まれ死亡する重大労災事故、2018年1月には吉備線 井原市志和口駅間では、移動中に安全ロープの線路側に立ち入り、列車と作業員が触車する事象などの重大労災が発生しています。

また、「鉄道安全考動計画2017」の数値目標を2016年度と2017年度で比較すると、注意事象は9件減(74件↓65件)で減少傾向にあるものの、ホームにおける鉄道人身障害事故6件増(11件↓17件)、踏切障害事故11件増(14件↓25件)、部内

り、組織内候補をはじめとする重点候補者の必勝に向けた取り組みの強化が必要となります。

特に賃金実態調査等でも明らかとなっている若年層の組合員の投票率が低く、政治に対する意識が希薄であることに問題意識を持ち、政治と交通政策、そして我々の生活には無関心であっても無関係ではない政治に対して理解を深める取り組みを進め、加入率70%に向けて「交通政策をすすめる会」の加入拡大に取り組みます。

我々は、現在の政局には左右されることなく、JR連合、JR西労組の政策に賛同し、活動してくれる議員に対しては、引き続き支援をしていくこととします。

原因による輸送障害3件増(149件↓152件)、労働災害ではJR本体で14人増(158人↓172人)、パートナリ会社で30人増(148人↓178人)となっており、最終年度に増加している現状を厳しく受け止めなければなりません。

福知山線列車事故から13年が経過し、事故後に入社した組合員も1万人を超え、急速に世代交代が進む中で、この事故が取り返しのつかない悲劇を生んでしまったという事実を決して忘れることなく、そして心に刻み、安全の確立を運動の最優先課題に位置付け、二度と事故を繰り返さないために、職場から不断に取り組みを重ねていく決意を明らかにします。

本年度は、上記の問題意識に基づき、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の検証と実践に向けて、職場の実態や意見を踏まえた積極的な問題提起を行い、真の安全確立に向けた議論を徹底していきます。そして、新幹線重大インシデントへの対応については、短期的、中長期的にソフト、ハード両面の改善を求めるとともに、6月に発生した殺傷事件や人身事故時の対応などの課題にも取り組みます。さらに、2017年度の第三者評価報告書で厳しい指摘のあった組織風土の改善については、これまで

